

イカナゴ情報(2010年6月)

平成22年6月7日, 稚内水産試験場調査研究部, Tel 0162-32-7166 担当: 板谷

宗谷海峡東方海域のイカナゴの漁獲量と昨年までの漁獲動向(サイズ, 年齢組成等)について報告します。なお, 昨年まで実施していた漁期前の漁場水温調査については, 今年から漁期中の6月21~25日の期間に実施することとなりました。

【昨年度までの漁獲量】(図1)

昨年度(H21年, 2009年)のオホーツク海における沖合底曳き網によるイカナゴの漁獲量は1万4千トンで、H20年度と同程度となりました(図1)。漁法別にみると、オッタートロールが6.4千トンと5千トン増加しましたが、かけまわしが7.8千トンと5千トン減少しました。

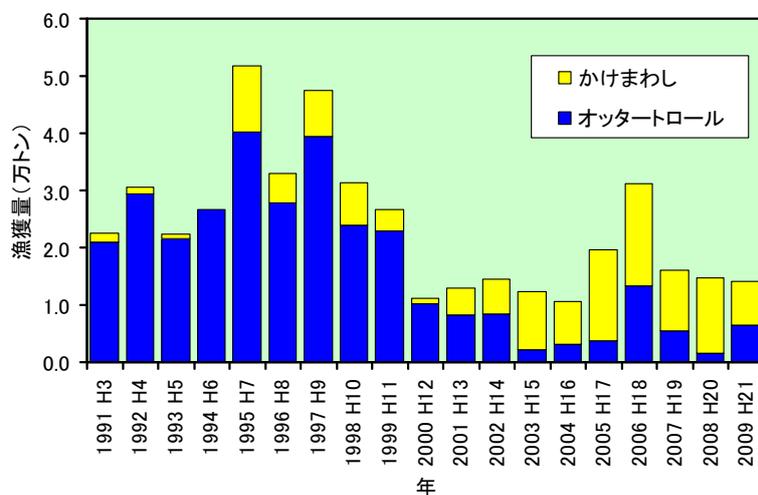


図1 オホーツク海のイカナゴの漁獲量

【昨年度までの年齢組成】(図2)

2009年の年齢組成は2歳魚(体長約18cm)の小型魚が6割以上を占めました。ここ5年の年齢組成を見ると、漁獲量が3万トンを超えた2006年には、2歳(2004年級群■)が卓越して多く、2009年の2歳(2007年級群■)は2番目に多いものの、他の年級群と大差は無いようです。

例年、漁期はじめ(6~7月上旬)には、3歳以上の大型魚が主体となるので、今漁期の3歳(2009年の2歳■)は少し期待できそうですが、4歳以上は多くないようです。

漁期中盤以降(7月中旬以降)には、例年1, 2歳魚が主体になりますが、2009年の1歳(2008年級群■)を見ると2004年級群■の様には多くはなく、予測は難しいところです。漁期中の漁獲物の標本調査を通じて注視していきたいと思ひます。

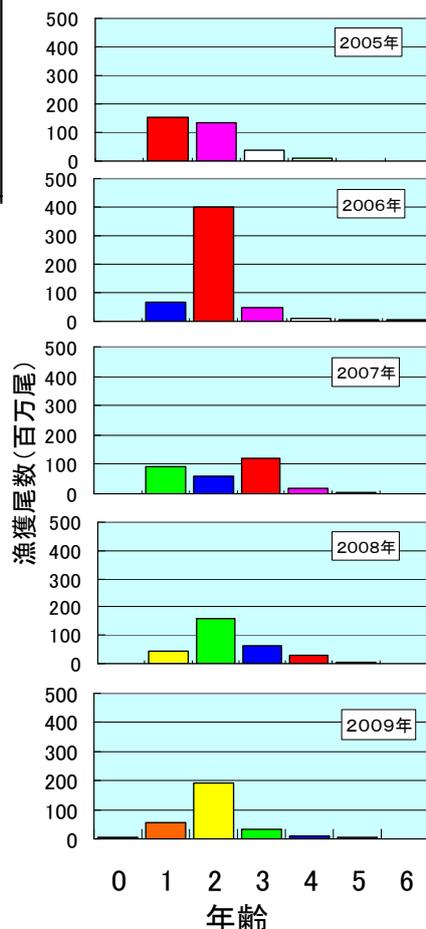


図2 年齢組成の推移

※ 2009年は稚内機船のみの漁獲量から暫定的に算出しているため、過小推定となっている。他は、枝幸・紋別を含む。

【漁期はじめの体長・年齢組成】(図3)

例年、6月のオッタートロールでは、体長 22~24cm の大型魚の3歳以上が主体です(グラフ上)。しかしながら今年は、6月3日の漁獲物を測定したところ、体長組成には2つのモードが見られ、体長 22~24cm の3歳に加えて、体長 18~20cm の2歳魚が多く見られました(グラフ下、▼は2008年生まれ)。このように、漁期はじめから、2歳の小型魚が出現し継続する年は、漁獲量が多い年が多く(2006年漁期, H18年, 2004年生まれ加入)、今後、注目していこうと思います。

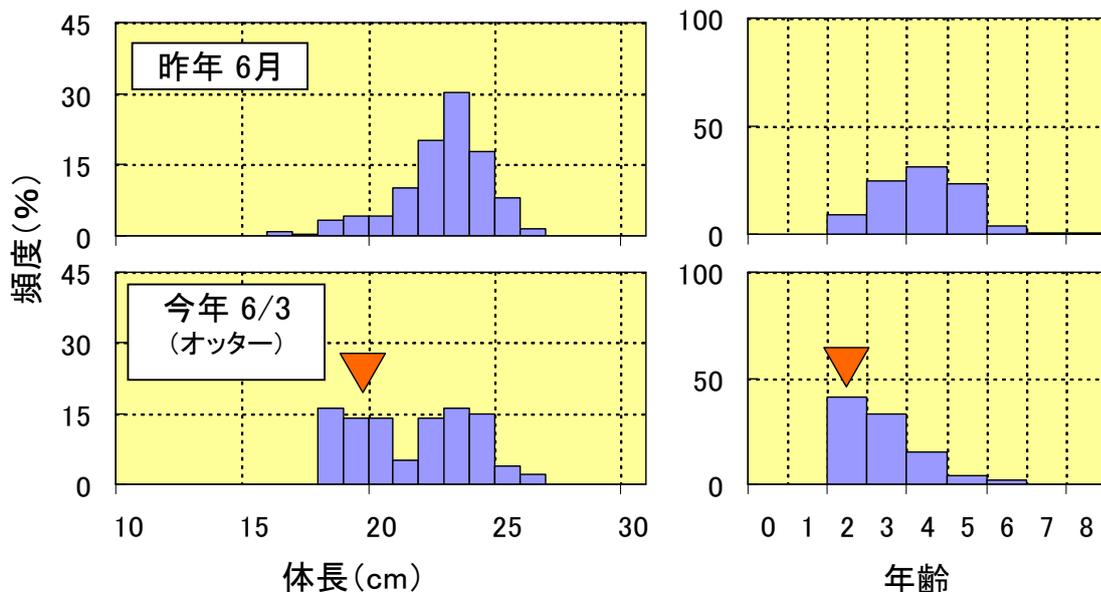


図3 イカナゴの体長・年齢組成(上:昨年6月, 下:今年6月3日)

【漁場水温: 調査船北洋丸による水温観測】(図4)

ポケット海域付近(観測点 OA10)の底水温は5°C前後で、昨年と同程度でした。沖側では水深 60~80m 層にマイナス1°C以下の冷水が差し込んでいますが、底付近では2~3°Cとなっています。

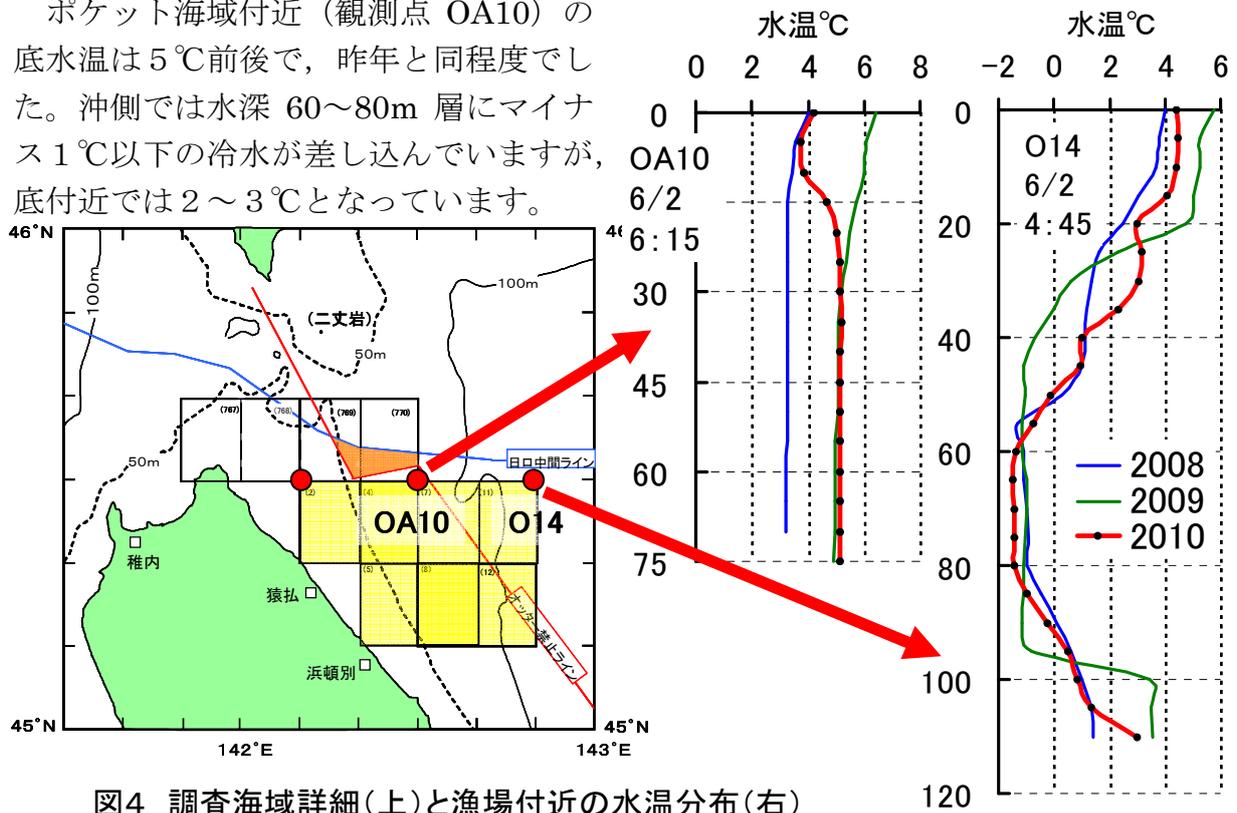


図4 調査海域詳細(上)と漁場付近の水温分布(右)